

104 2022 年、寅年（2022 年 3 月 24 日）

2022 年が明けて、早くも 3 か月が過ぎようとしています。今年は、寅年です。今回は、パリで出会える「日本のトラ」をご紹介します。

日本では、毎年、12 の動物（子：ネズミ、丑：ウシ、寅：トラ、卯：ウサギ、辰：リュウ（ドラゴン）、巳：ヘビ、午：ウマ、未：ヒツジ、申：サル、酉：ニワトリ、戌：イヌ、亥：イノシシ）のうち 1 つの動物を当てはめて、〇年と呼んでいます。十二支と呼ばれるもので、古代中国の天文学に由来し、元々は暦や方角を表すものとして使われてきました。12 年に一度、また同じ動物の年がめぐってきます。自分が生まれた年と同じ動物の年の男性は「年男」、女性は「年女」と言います。すなわち、12 の倍数の年齢の人が、年男又は年女になります。

東洋美術を所蔵するパリ市立チュルヌスキ美術館（※1）の 2 階に上がると、にらみを利かせた大きな虎が出迎えてくれます。チュルヌスキ美術館が発行している主要作品集の表紙を飾るこの虎は、日本で 18 世紀から 19 世紀の間の江戸時代に作られました。金で彩られた漆器で、目はガラスの象眼細工になっています。



作品解説を読むと、面白いエピソードが書かれていました。ジャポニスムが流行した 19 世紀末、パリでは日本の美術愛好家（ジャポニザン）によって多くの日本の美術品が取引されました。フランスの大女優であるサラ・ベルナール（1844-1923）が、美術商として林忠正と並んでジャポニスムのブームを支えたサミュエル・ビング（※2）からこの虎を購入しました。しかし、作家のエドモン・ド・ゴンクールが残した 1885 年 1 月 17 日付けの日記によれば、彼女はチュルヌスキ宛にこのような手紙を書きました。



「私は、本当にお金がなくて困っています。私がビングから 6000 フランで買った虎を、3000 フランで買ってくれませんか。今すぐお金が必要なのです。この虎は素晴らしい日本のものなので、あなたに願うのです。」

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

一度は大人気女優の手に渡ったのに、お金に困って手放された過去を知ると、威風堂々とした姿の虎に哀愁が漂っているようにも見えました。しかし、今このように私たちが目にすることができるのですから、チェルヌスキのコレクションに加えられたのは、この虎にとっては結果的に幸せだったのかもしれない。

もう一つ、全く異なる日本のトラをご紹介します。パリ日本文化会館では、シリーズ「男はつらいよ」の全50作品を一年かけて上映しています。主人公の寅さんの名前で親しまれる日本では国民的に人気のあるシリーズですが、フランスで本格的に紹介されるのは初めてのことです。寅さんシリーズは、作品数で世界最長の映画シリーズとして、ギネスブックに認定されています。パリ日本文化会館で、寅さんをめぐる人情溢れる物語をどうぞお楽しみください。



上映スケジュール：<https://www.mc.jp.fr/ja/agenda/une-annee-avec-tora-san-jp>

寅年 2022 年が、皆様にとって幸せな一年となりますように。



※1 53 海を渡った仏像 (2021 年 5 月 4 日)
<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100185048.pdf>

※2 78 美術商・林忠正とジャポニザン (2021 年 9 月 9 日)
<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100231988.pdf>